

戦評用紙

大会名	平成30年度 第29回山形県高等学校バスケットボール選手権大会
-----	---------------------------------

日時	2018年10月28日 13:30 ~	区分	(一財)山形県バスケットボール協会
----	---------------------	----	-------------------

チームA				チームB
羽黒				鶴岡工業
106	25	1Q	9	70
	25	2Q	21	
	27	3Q	22	
	29	4Q	18	
		延長		

【戦評】

白:羽黒高校(4・7・8・10・13)、黒:鶴岡工業高校(4・6・7・9・10)、ともにマンツーマンで始まる。高さで勝る羽黒は13のゴール下シュートで先制。すかさず鶴岡工業も4の素早いドライブからのパスを7が決めやり返す。序盤は鶴岡工業のファールが重なってしまい流れを掴むことができない。羽黒はピックアンドロールからのオフェンスを中心にコートをうまく使い得点を重ねていく。羽黒が優勢のまま25対9で1Qが終了。第2Q鶴岡工業は羽黒に食らいついていく。羽黒のミスから鶴岡工業8が速攻を決め流れが傾きかけるも、羽黒も4の2連続3Pシュートで流れを渡さない。たまたまに鶴岡工業は残り2分でタイムアウトをとる。その後も一進一退の展開が続くが、羽黒のシュート精度の高さとリバウンドの強さから差は縮まらず50対30羽黒の20点リードで前半を折り返す。第3Q鶴岡工業は4の速攻、7の3P、10のドライブで7点を取り返す。しかし羽黒はあわてることなく自分たちのプレーを続けていく。途中出場の羽黒6もドライブからのレイアップを決め、インサイド、アウトサイド万遍なくどこからでも点を取れるオフェンス力を見せつけた。鶴岡工業も早いトランディションからの速攻や3Pシュートで応戦するが、77対52で羽黒がじわじわとリードを広げていく。第4Q追いつきたい鶴岡工業だがインサイドを中心とした羽黒の攻めになかなか対応できない。羽黒はメンバーを変え最後まで攻めの姿勢を取り続け106対70でインターハイに続きウインターカップの出場権を手に入れた。

戦評者

植松 駿也